

自分らしく生きると決めた。



ぼくらの7日間戦争

Seven Days War

北村匠海 芳根京子

宮沢りえ (特別出演)

潘めぐみ 鈴木達央 大塚剛央 道井悠 小市眞琴 櫻井孝宏

原作: 宗田理『ぼくらの七日間戦争』(角川つばざ文庫/角川文庫/KADOKAWA 刊)

監督: 村野佑太 脚本: 大河内一樹 キャラクター原案: けーしん キャラクターデザイン: 横作画監督: 清水洋

総作画監督: 西岡夕樹 場面設計: 櫻井昌之 美術監督: 廣林大貴 色彩設計: 広瀬いづみ 撮影監督: 木村俊也 音響監督: 菊田浩巳 音楽: 市川淳

主題歌: 「決戦前夜」「おまじない」「スピリット」 Sano ibuki (ユニバーサル ミュージック/EMI Records)

あの戦争から30年、新たな戦いが始まる。

KADOKAWA

制作: 栗林聖堂 配給: キヤク KADOKAWA
ぼくらの7日間戦争制作委員会: KADOKAWA キヤク 電通 ソニー・ミュージックソリューションズ グローバル・ソリューションズ 至福堂 GYAO TBSラジオ ユニバーサル ミュージック 読売新聞社
©2019 栗田理 KADOKAWA 『ぼくらの7日間戦争』制作委員会

GAGA★

累計発行部数2000万部の人気シリーズがアニメ化



北村匠海と芳根京子が 自由を愛する少年少女に“声”を吹き込み デビュー作の役を再び演じる宮沢りえが “戦争”を新世代に伝える

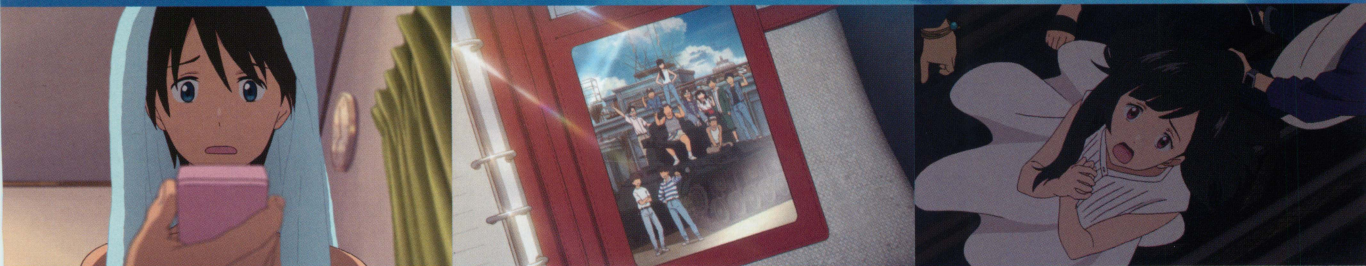
大人による管理教育に反抗した中学生の主人公たちが廃工場に立てこもり、爽快な逆襲劇を繰り広げる——。『ぼくらの七日間戦争』は、1985年に宗田理により書き下ろされると、当時の中高生を中心に熱狂を生み、またたくまにベストセラーとなった。88年に公開された実写映画は、当時14歳の宮沢りえが初主演にして女優デビューを飾ったことや、TM NETWORKによる主題歌「SEVEN DAYS WAR」のセンセーショナルなメロディーが話題を呼び、累計発行部数2000万部を超える小説と共に青春エンターテインメントの金字塔として世代を超えて愛されてきた。

2019年冬——。この“ぼくら”シリーズが、舞台を2020年の北海道へと移し、初のアニメーション映画として生まれ変わる。

本作の主演声優を務めるのは、初主演映画『君の膵

臓をたべたい』以来、数々の賞に輝き、俳優として目覚ましい躍進を見せる一方で、アニメ好きを公言してきた北村匠海。気は弱い、豊富な知識で大人に立ち向かう主人公・鈴原守を演じる。そして、守が想いを寄せる千代野綾役には、朝の連続テレビ小説『べっぴんさん』のヒロインとして人気を博し、映画での好演も高い評価を得る芳根京子が選ばれた。さらに、実写映画版から30年後の中山ひとみ役を、前述の実写映画で同役を演じた宮沢りえが担うことは、この作品が持つ普遍の魅力と、アニメーション化という革新の意義を、いっそう深いものとする。他にも、主人公の仲間たちには、アニメーション界の今を支える実力派声優が名を連ねた。

令和に生きる全ての“ぼくら”へ贈る、新しい“7日間”の戦いをお楽しみください。



2020年、北海道。

高校二年生の鈴原守は密かに想いを寄せていた幼なじみの綾が、親の都合で急きょ転校してしまうことを知る。

守は勢いで「一緒に逃げよう!」と一世一代の告白をするが、クラスメイトたちとともに廃工場への家出計画に発展していく。

そんな子どもじみとした小さな反抗が、大人たち、街中やネットをも巻きこむ一大騒動になるとは知らずに。

12.13 全国ロードショー